

ワイヤレスベースステーション（無線通信データ収集機 / 無線中継機）

RTR-500C 機能と仕様

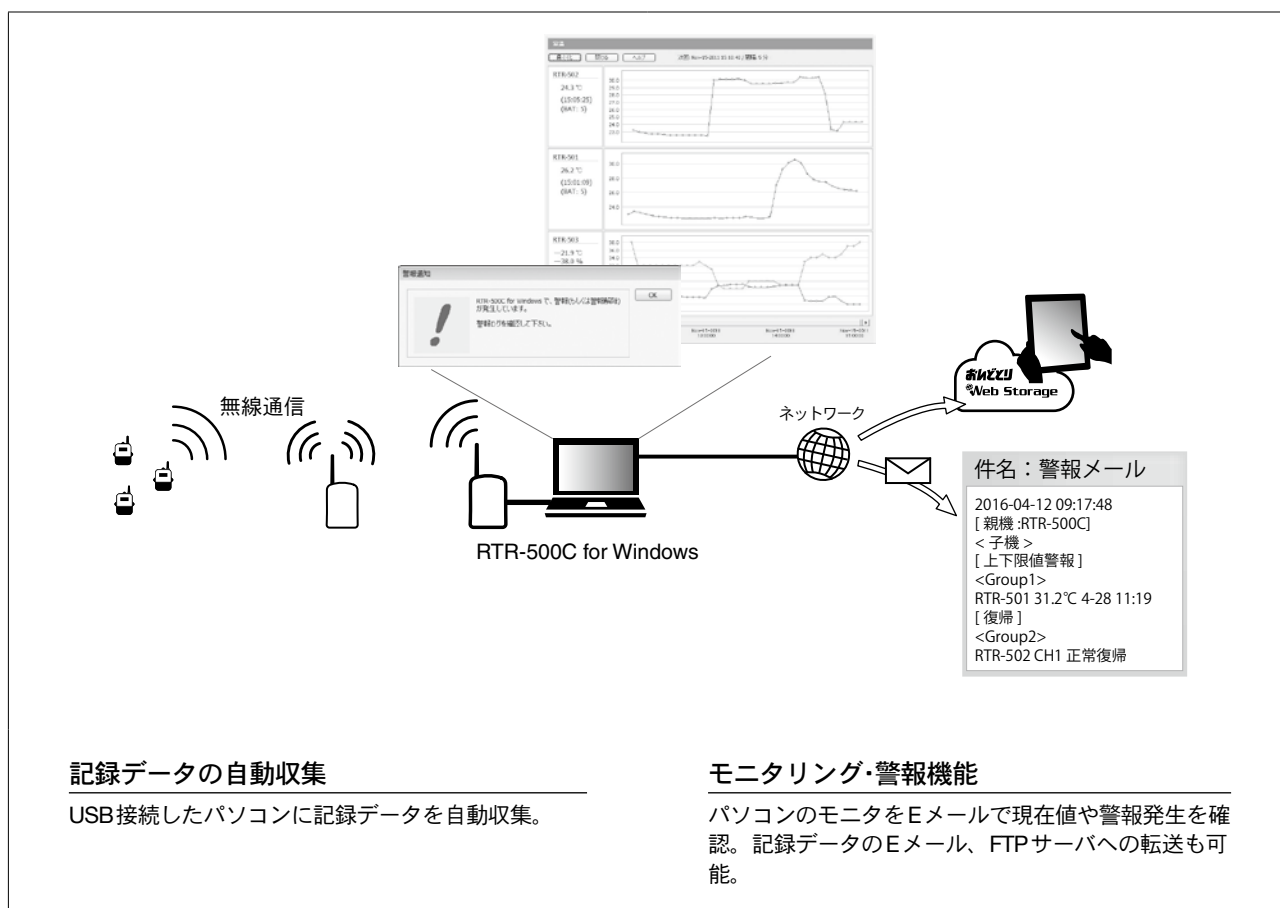
データ転送
USB

モニタリング
T&Dクラウドサービス、
インターネット、

警報
測定値オーバー、
センサ異常、通信エラーほか

警報確認方法
Eメール
専用ソフトウェア

USBケーブルでパソコンに接続し、付属ソフトウェアでワイヤレスデータロガー（子機）の記録データを収集・転送、モニタリング、警報監視を行う無線収集機（親機）です。また、RTR-500シリーズの無線中継機としてもご利用いただけます。



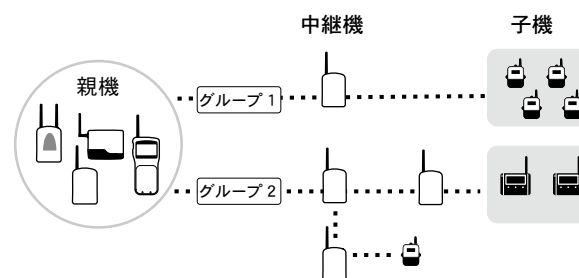
32台x20グループのデータロガーを一括管理

グループごと32台のワイヤレスデータロガー（子機）を登録可能。無線中継機は1グループにつき30台まで設置可能。

※ RTR-574 / 576 は1台の登録を2台分としてカウントするため、1グループにつき16台になります。

無線通信距離を延長する中継機として

無線通信距離は見通しのよい直線で最長約150m。RTR-500CはRTR-500シリーズの無線中継機に。



- ・この製品は日本での電波法に準じております。無線通信機能は国外ではお使いになれません。
- ・RTR-500シリーズなどの通信DLL、現在値/記録データ(XML)のファイルフォーマットを無償で公開します。弊社機器を利用した独自のアプリケーション、システムを作成することができます。

RTR-500C ワイヤレスベースステーション

RTR-500C	
対応機種	子機: RTR-501, 502, 503, 507S, 574, 576, 505-TC, 505-Pt, 505-V, 505-mA, 505-P Lタイプ, Sタイプ含む その他 (*1) 中継機: RTR-500C
最大登録台数	子機: 32 台 x 20 グループ (*2) 中継機: 30 台 x 20 グループ
通信インターフェース	親機 - 中継機 - 子機間: ・特定小電力無線通信ARIB STD-T67 周波数429 MHz帯, RFパワー 10 mW ・光通信 RTR-574, 576 を除く子機 親機 - PC間: ・USB通信 ・シリアル通信 RS-232C (*3)
無線通信距離	約 150 m 見通しの良い直線において
通信プロトコル	SMTP (POP before SMTP, SMTP-AUTH (LOGIN / PLAIN / CRAM-MD5), SMTP over SSL/TLS, STARTTLS), FTP (*4)
電源	USBバスパワー, 単3アルカリ電池 x 2, ACアダプタAD-06A1 (*5)
電池寿命 (*6)	約6ヶ月: 中継機として使用時, 1日1回フルデータ吸い上げ, 中継機1台, 子機機1台
本体寸法	H 96 mm x W 65 mm x D 25 mm アンテナ長 55 mm
本体質量	約60 g
本体動作環境	温度 -10~60℃ 外部電源使用時-30~60℃ 湿度 90 %RH 以下 結露しないこと
付属品	USB Mini-B 通信ケーブル US-15C, ソフトウェア CD-ROM, 名前シール, 保証書付取扱説明書一式
ソフトウェア	RTR-500C for Windows
ソフトウェア対応OS (*7)	Microsoft Windows 10 32 / 64 bit 日本語 Microsoft Windows 8 32 / 64 bit 日本語 Microsoft Windows 7 32 / 64 bit 日本語 Microsoft Windows Vista 32 bit (SP1以降) 日本語

*1: 旧機種 RTR-5 シリーズと混在使用が可能です。互換性および仕様については、弊社 Web サイト ([▶](#) 製品 > RTR-500 シリーズ 製品概要) にてあらかじめ確認してください。

*2: RTR-574, 576 は 1 台の登録を 2 台分としてカウントします。

*3: 別途公開の通信プロトコルを使用し、お客様ご自身でソフトウェアを作成していただければ PC 間とのシリアル通信が可能となります。その場合オプションのシリアル通信ケーブル TR-07C が必要です。

*4: 付属ソフトウェアによって実現される機能です。

*5: USB 接続での使用時は電池や AC アダプタは不要です。中継機として使用する場合は単 3 アルカリ電池または AC アダプタを別途用意してください。

*6: 周辺温度、通信回数、電池性能などにより異なります。新しい電池を使用したときの標準的な動作であり、電池寿命を保証するものではありません。

*7: インストール時、Administrator (パソコンの管理者) の権限が必要になります。

上記仕様は予告なく変更することがあります。